



リンドウを市の特産品に！

親子で助け合って栽培

千種町西山の前田敬太さんは、認定農業者として水稲をはじめ葉ボタンやビオラ等の花卉を栽培しています。

農業大学校を卒業後はJAハリマで営農指導員として多品目を担当していました。自身のアドバイザーが生産者の役に立つことにやりがいを感じる中で、次第に自分も農業に挑戦したいという思いが芽生え、2年前に就農しました。

物流業界の2024年問題が、花卉の配送にも大きな影響を与えているといったことを知り、慶事弔事にも普段使いにもでき、地域の気候的にも栽培に適しているリンドウに目を付けました。

JAの営農指導員だった父親の高春さんは良き相談者であり心強い共同作業者。母親のゆみさんも協力して家族総出で栽培を始めました。

リンドウは、他の切り花と比較して茎が細く、高さ1メートル以上に成長するため倒れやすいので、茎を固定し、花の生育を助けるフラワーネットを設置したり、高温に弱いため全ての畝に白色のマルチを張り、地温が上がらないように工夫をしながら栽培しました。収穫したリンドウは、JA直売所や市場に出荷され、凛とした姿と鮮やかな色合いが大変

好評でした。

今年の収穫期を終えた前田さんは、今後は収穫量の安定化を図るとともに、青色だけでなく様々な色のリンドウの栽培にも挑戦し、多様な消費者のニーズに 대응していきたい。そして、宍粟市の特産品として定着させたい」という強い意気込みを語っていました。



前田さん親子と咲きそろったリンドウ(8月撮影)